

湯布院

第 55 号

発行・湯布院駐屯地後援会
印刷所・大野印刷株式会社



桜花爛漫! 湯布院駐屯地

駐屯地観桜会



桜の花も満開となった湯布院駐屯地において四月五日駐屯地後援会との共催による観桜会及び春期家族間コミュニケーション支援行事が行われ、招待者、隊員及び隊員家族約1000名が集い春爛漫のひとときを満喫した。

湯布院駐屯地は、由布市防衛協会、由布市議会議員、湯布院町自衛隊退職者就職援護協議会、西方特科隊3群OB会、由布地区隊友会、由布市父兄会、駐屯地後援会等多数の参加を得て駐屯地観桜会を開催した。

今回は特に、2月から3月にかけてアメリカ海兵隊第3海兵師団の砲兵連隊が、日出生演習場で移転射撃を実施し、道の駅での出迎え、訓練公開の参加など、自衛隊に対してご支援ご協力を頂いている協力団体の皆様に対し、湯布院駐屯地司令(三宅優一等陸佐)が感謝の意を述べ褒めを贈った。

続いて共催者である湯布院駐屯地後援会長(岩男裕二郎氏)から「桜は丁度いい時期になりましたが、昨日から大雨が降って、雷が鳴って、でも、こういう形でちゃんとお花見が出来る状況になっています。この会場から見ると、駐屯地の満開の桜を見ながら、この観桜会を楽しんで下さい」と挨拶を頂いた。

今回は、隊員家族を交えた春期家族間コミュニケーション支援行事も同時実施され、隊員家族はそれぞれの部隊の会場でパーベキューを堪能し、春のひと時を楽しんだ。

自衛官候補生入隊式 55名が候補生としての第1歩を ~決意も新たに力強く宣誓!~



西部方面特科隊は、四月四日(土) 大分県選出の国会議員をはじめ由布市議会議員、関係協力団体及びご家族等多数ご臨席を賜り、平成二十七年度の自衛官候補生入隊式を実施した。

五十五名の自衛官候補生は、真新しい制服に身を包み、緊張の中にも滝と化した表情で式に臨み自衛官としての第一歩を踏み出した。

参列した家族たちは、僅かな期間ですっかり身に付いた制服姿と精悍な態度に感動の面持ちで見入っていた。

入隊式は、西部方面特科隊長(三宅優一等陸佐)が執行者となり、式辞の中で、「修了式には五十五名が一名も欠けることなく三ヶ月間の教育を頑張り抜くこと、夢と理想を持つこと、物事の本质を見極めること」を要望し、自衛官候補生の成長に期待を込めて激励した。

引き続き隊員食堂で行われた祝賀会では、家族に久しぶりの再会した候補生が、次第に緊張も解けたのか笑顔で話しながら和やかな雰囲気の中、入隊行事を終了した。

駐屯地プール開き行事!

湯布院駐屯地では、四月五日(日) プール開き行事を実施した。

陸上自衛隊では、島嶼防衛のための水陸両用作戦において、高い水泳能力の保有が求められているため、前年度まで七月に実施していたプール開きを年度当初のこの四月に実施して、隊員が水泳訓練を実施できる環境を整えた。

始めに、湯布院町内の宇奈岐日女神社から宮司を招き、今年一年の水泳訓練における安全を祈願した。

その後、各部隊から水泳能力の高い隊員を選抜し、水着による50m泳着表(鉄帽・戦闘服・戦闘靴)による50m泳、緊急脱衣の要領の展示、そして溺者の救助要領を特科隊長自ら展示した。途中、人命救助用ボートの漕法を展示し、最後に行事参加者全員で勝鬨をあげて記念撮影し行事を終了した。

西部方面特科隊

訓練始め

平成二十七年の幕開け！

一月六日(火) 西部方面特科隊は日出生台演習場(二の台)において、平成二十七年特科隊訓練始めとして、隊統制による84mm無反動砲射撃訓練を実施し射撃能力の向上を図った。

当日は肌寒い雨の降る悪天候だったが、参加した各部隊は、昨年から計画的に射撃予習訓練等を行い一発必中の精神で実弾射撃に臨んだ。



特科隊訓練



一月十九日(月) から三十日(金) までの間、健康駐屯地において統合幕僚監部が実施した平成二十六年年度自衛隊統合演習(指揮所演習)及び、陸上自衛隊演習(26陸陸)に、西部方面特科隊長以下四十二名及び第一〇一特科直接受援隊の二名が参加し、共同・統合運用における西部方面特科隊の行動について検証・演練し、西部方面隊の共同・統合作戦遂行能力の向上に寄与した。

二週間に及ぶ演習は、前段(準備訓練)・後段(指揮所訓練)に区分され指揮所訓練においては、海空自衛隊と連携して協同対艦攻撃に関する検討を実施し、問題点を明らかにした。参加した各隊員は、与えられた任務を遂行し教訓を得るとともに所望の成果を確認し終了した。

西部方面総監より 第3級賞状受賞



本部中隊

霧島の地において

本部中隊(中隊長鎌田茂二等陸尉)は、一月二十六日(月) から二十八日(水) の間、霧島演習場市街地訓練場において、「検問」の訓練を実施した。人員十三名車両六両を編成し、第一〇一特科直接受援隊より二名の同行整備支援を受け訓練を実施した。

「検問」では、資材等の配置、検問小隊の編成、人員・車両の点検要領等について訓練を実施した。

市街地を想定した場所での訓練できたことは大きな成果があった。また、訓練場管理班の案内により市街地訓練場の設備等を研修することができ、多岐にわたる訓練ができる事を認識できた。

今回、霧島演習場で訓練を実施したが機会を捉え、各訓練場を有効に活用し訓練を実施していきたい。

霧島演習場までは、往路約三五〇キロ、復路約二〇キロの長距離機動を完遂し、車両操縦技術を練成することができた。



第三〇二観測中隊

各種事態を想定し

第三〇二観測中隊(中隊長西秀弘三等陸佐以下七十七名)は平成二十七年一月十三日(火) から一月十五日(木) までの間、第二次ゲリコマ対処訓練を駐屯地内及び曾根訓練場の市街地訓練施設に分かれて実施し、治安出動時の権限及び行動、特に安全化要領の練度向上を図った。



第一一二特科大隊

昨年と同一砲班長連覇死守

第一一二特科大隊(大隊長山本英一郎二等陸佐)は、一月二十二日(木) に、日出生台演習場で平成二十六年年度砲班競技会を実施した。

各中隊の六個砲班が参加し、日頃の訓練の成果を発揮した。

悪天候で足元の悪い中の競技会だったが、砲班長の的確な指示のもと、第三中隊第二砲班(砲班長 塩壠三曹)が優勝した。

本競技会を通じ、練度向上が図られた。



第一三三特科大隊

第三射撃中隊 連覇達成

第一三三特科大隊(田入保智二等陸佐)は、一月二十三日(金) に日出生台演習場において平成二十六年年度大隊射撃班・彈薬班競技会を実施し、射撃班及び彈薬班の練度向上を図った。

各中隊は、射撃班・彈薬班をそれぞれ二コ班編成し、彈薬卸下・再装填・射撃の精度と速度を競い、中隊と班(組)の名誉をかけた班長・組長を核心として日頃の練成の成果を遺憾なく発揮し優勝を目指して競技に挑んだ競技結果は次の通り

- 射撃中隊対抗の部
 - 優勝 第三射撃中隊
 - 準優勝 第二射撃中隊
- 班(組)対抗の部
 - 射撃班の部
 - 一位 第三射撃中隊(第一射撃班)
 - 二位 第一射撃中隊(第二射撃班)
 - 彈薬班の部
 - 一位 第三射撃中隊(第二彈薬班)
 - 二位 第三射撃中隊(第一彈薬班)



駐屯地業務隊

陸上幕僚長表彰

平成二十六年十二月八日(月)、市ヶ谷駐屯地において隊員の福祉向上及び厚生施策の推進に寄与した功績により陸上幕僚長から第二級賞状が授与された。

厚生科をはじめ業務隊所属隊員全員で受賞を喜び、駐屯地業務の更なる向上を誓った。

平素の駐屯地隊の厚生等業務への御協力に深謝する。



陸上幕僚長から賞状を受け取る業務隊長



陸上幕僚長との記念撮影

インフルエンザ蔓延防止

衛生科は、一月八日(木)から二月十六日(月)までの間、九十六号隊舎一階外来宿舎に季節性インフルエンザ対処のため隔離部屋を開設した。

十一月に事前訓練をした成果もあり、その期間中、二十七名の隊員を収容して、インフルエンザの蔓延防止に寄与した。



ベッドメイクを実施



隔離部屋の完成

日出生台演習場鳥獣害対策

平成二十六年十二月十六日(火)、日出生台演習場内の猟銃による害鳥獣捕獲の協定を大分県及び由布、玖珠、九重の市町長と陸上自衛隊との間で締結した。これにより、十二月二十八日(日)から一月四日(日)までの間湯布院、玖珠及び九重の猟友会等(人員延べ百九十五名)による害鳥獣の捕獲を実施し、鹿百四十三頭、猪七頭を捕獲した。



調印者による記念撮影

通信電子器材庫完成

FCCS(火力戦術管制指揮システム)が全国自衛隊の中で先駆けて湯布院駐屯地と富士駐屯地に装備される。このため平成二十六年二月十四日(金)から通信電子器材庫の建設に着工し、平成二十七年一月三十日(金)に完成した。



通信電子器材庫完成

各種検定(格闘・救急法)

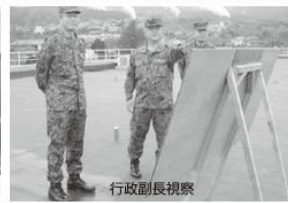
平成二十六年十一月十一日(火)及び十二日(水)の二日間にかけて、格闘検定を実施し、業務隊の隊員合わせて二十七名が格闘検定を受検した。また、平成二十七年二月九日(月)、十日(火)及び十二日(木)の三日間にかけて、業務隊の隊員合わせて五十二名が救急法検定を受検した。

検定を受検した隊員は、計画的に実施した練成訓練の成果もあり、緊張しつつも整齊と与えられた課題を受検した。

各種業務・行事



各種会食支援



行政副長視察



演習場監視員と築城プレ航空ショー研修



日出生台演習場関係者調整委員会



年忘れ行事



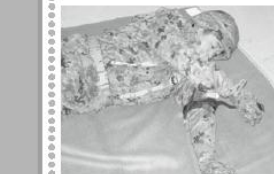
OB会総会



心臓マッサージを実施



応用技術(小舟携行)



緊迫止血を実施



基礎技術(手首返し)

第368施設中隊

中隊は、一月十七日(土)から十九日(月)までの間、寒風吹き荒み、雪が舞いマイナス八度を記録した日出至台演習場で平成二十六年中隊訓練検閲を受閲した。

検閲は、節団の作戦地域内における機動路と補給路線の維持・補修に任ずる中隊の行動で、交通小隊は、油圧ショベル、湿地ドーザ等の施設建設器材を駆使してめがね原道整備工事を実施し、渡河器材小隊は、自走架柱橋により新北道及び秋山地区二箇所の河川に橋梁を架設し、中隊本部は、指揮所、炊事所の開設・運営を実施して各小隊の人的・物的戦闘力の維持増進に寄与し、それぞれが中隊長要望事項である「しらんけん」を具現化し、無事故かつ所命の時期までに任務を完遂させた。

隊員一同が、中隊一丸となって任務に邁進し、任務を完遂したという達成感を味わうとともに、次年度への目標を確立することができ、充実した訓練検閲受閲となった。



隊容検査



メガネ原道整備工事



自走架柱橋による橋梁架設

第二〇二特科 直接支援隊

鎮西26に参加して

三等陸曹 日久実 亮

私は昨年実施された鎮西26に参加し、種子島に展開する第五地対艦ミサイル連隊の直接支援部隊として同行支援を実施しました。

私が同行支援を実施する上で着意したことは、支援対象車両を確実に点検整備することです。

訓練は特に大きな故障もなく終わりましたが、私の中で印象に残った事は、展開地に到着した際に種子島の方々にとても暖かい歓迎を受けたことです。

暖かい歓迎を受けたことにより、各部隊・各人の士気が上がりました。團結・規律・士気の三要素は自衛官たる者にとって大事な要素だと思っています。

私ごとではありますが、平成二十七年一月一日付をもって三等陸曹に昇任させていただきますことができました。

部隊・上司の方々に感謝の気持ちを忘れず、これからもより一層精進し、部隊の力になれるように頑張っていきたいと思っています。

駐屯地曹友会

十二月十九日(金)に実施された年忘れ行事のイベントで音楽部の部内演奏を支援しました。

初めての試みでありましたが曹友会長指導のもと、大型トラックの荷台で音楽部が安全に演奏できる舞台を作成しました。作成に際し、各分会の積極的で、親身な支援を頂き、予想以上の立派な舞台が完成しました。当日は天候にも恵まれて、音楽部の素晴らしい演奏で各分会の年忘れ行事を盛り上げ、平成二十六年の最後に穏やかな、楽しいひとときを作ることが出来たと思います。これからも会員の皆様への支援に感謝しつつ、実のある曹友会活動を心がけていきたいと思います。



第三〇四基地通信中隊

基地通信隊では今年度、システム・射撃・武装走・銃剣道・持続走等各種競技会が実施されました。なかでも二月四日(金)に実施された中隊持続走競技会には、各隊・各派遣隊ごとに厳正な抽選で選出された五名の選手(アンカーは派遣隊長)が、福岡駐屯地の中を駆伝形式で走るといふものでした。

練成は、仕事の間合いをぬって走るしかなく、選手になった人たちはほとんどが自主トレで、不安しな練習方法でした。しかし、他の隊員も走る時は共に走り、徐々にタイムを上げて本番に挑みました。

本番当日は小雨の降る中、全員が自分の全体力をコーズに集中させ、自己ベスト更新という力走でした。応援組もかなり力が入った温かいもので、選手と一丸となって戦いました。

結果は、十三チーム中五位！三区では坂元三曹が区間賞を獲得しました。

この競技会で、我が湯布院派遣隊は更なる団結の強化と、各人の体力・気力の向上を図る事が出来ました。(一区から、古荘・光安→坂元→魚野→花山)



平成二十六年十二月十五日(日)から平成二十七年一月四日(日)の間、おおいな年末年始事故ゼロ運動が実施され、曹友会活動として、湯布院町内の街頭啓発運動に、各分会の皆様と参加しました。年末年始で、お忙しい中、各分会の隊員の皆様にご参加いただき有難うございました。お蔭様で、地域の皆様へ「地域とともに歩む湯布院自衛隊」という印象をしっかりと持って頂けたのではないかと感じております。今後も湯布院駐屯地曹友会が、「地域の為、駐屯地の為」をモットーに努力してまいりますので、引き続きご支援ご協力よろしくお願いいたします。



平成二十六年 後期定期異動

着任特科隊副隊長



佐 耕 司
山口 一等陸尉

離任特科隊副隊長



佐 浩 典
瀧上 一等陸尉

新部隊長紹介

駐屯地業務隊長
九州補給処 自衛連 裕
二等陸佐

第二三特科大隊長
陸上幕僚監部 曹長 貴博

第三六八施設中隊長
第五施設団 小曹 寛樹

転入者の紹介

特科隊本部
富士学校 曹長 三佐 迫田 雅昭

第四地対艦ミール海隊 八巴
一尉 水野 博之

特科教導隊 曹長 三佐 吉田 俊雄

特科教導隊 曹長 一曹 荒木野剛志

特科教導隊 曹長 一曹 吉田 俊雄

特科教導隊 曹長 一曹 荒木野剛志

特科教導隊 曹長 一曹 荒木野剛志

特科教導隊 曹長 一曹 荒木野剛志

特科教導隊 曹長 一曹 荒木野剛志

特科教導隊 曹長 一曹 荒木野剛志

特科教導隊 曹長 一曹 荒木野剛志

特科教導隊 曹長 一曹 荒木野剛志

特科教導隊 曹長 一曹 荒木野剛志

転出者の紹介

駐屯地業務隊長 曹長 田崎 豊秀

特科隊本部 曹長 中川 修二

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

特科教導隊 曹長 井上 昌治

第三〇二観測中隊

特科連 北千穂 三尉 五十嵐 圭輔

第四特科連 曹長 山口 祐司

特科教導隊 曹長 河野 圭寿

第三六八施設中隊 曹長 本田 政信

第四司令部 曹長 三佐 山内 隆可

第五施設団 曹長 二尉 山内 隆可

駐屯地業務隊長 曹長 山口 広行

第一二特科大隊 曹長 園田 祐二

第五地対艦ミール連隊 曹長 井口 孝司

第四地対艦ミール連隊 曹長 深水 信哉

第五陸軍曹長隊 曹長 久保山 高雄

九州補給処 曹長 前田 正利

第一二特科大隊 曹長 谷口 剛之

第十五航空司令部付隊 曹長 鶴田 貴司

特科教導隊 曹長 勝河 清典

自衛隊福岡病院 曹長 土長 古川 翔太

第一空挺団 曹長 牟田 的矢

第三九四会計隊 曹長 櫻木 政治

第三九四会計隊 曹長 西田 昌弘

駐屯地接護室 曹長 田久保 智

第一特科連 曹長 田久保 智

第二地対艦ミール連隊 曹長 柏木 佳親

第三地対艦ミール連隊 曹長 中野さわか

別府駐屯地業務隊長 曹長 森本 宏

駐屯地業務隊長 曹長 澤 浩司

健康駐屯地業務隊長 曹長 竹下 和孝

特科教導隊 曹長 堀 力

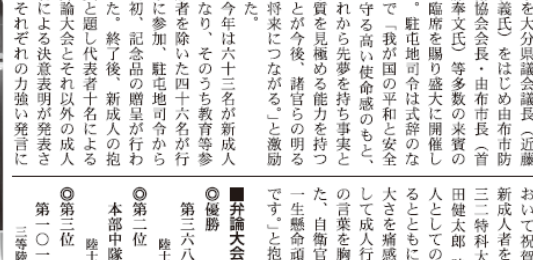
第七高射特科連 曹長 宮下 剛

駐屯地成人行事

一月八日(木)湯布院駐屯地体育館において、成人行事を大分県議会議員(近藤和義氏)をはじめ由布市防衛協会会長、由布市長(首藤泰文氏)等多数の来賓のご臨席を賜り盛大に開催した。駐屯地司令は式辞のなかで「我が国の平和と安全を守る高い使命感のもと、これから先業を持ち事実に本質を見極める能力を持つことが今後、諸官らに明るく将来につながる」と激励した。

今年には六十三名が新成人となり、そのうち教育等参加者を除いた四十六名が行事に参加、駐屯地司令から当初、記念品の贈呈が行われた。終了後、新成人の抱負と題し代表者十名による弁論大会とそれ以外の成人者による決意表明が発表され、それぞれ力強い発言に会場から大きな拍手が送られた。その後、隊員食堂において祝賀会食が行われ、新成人者を代表して、第一二特科大隊第二中隊前田健太郎 陸士長が「新成人としての喜びを噛み締めるとともに今後の責任の重大さを痛感しています。そして成人行事で述べた決意の言葉を胸に成人としてまた、自衛官として真面目に一生懸命頑張っていく所存です」と抱負を述べた。

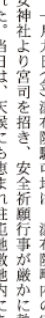
■弁論大会の結果
◎優勝 第三六八施設中隊 陸士長 山川 豊彰
◎第二位 本部隊 陸士長 橋原 健悟
◎第三位 第一〇一特科直接支援隊 三等曹曹長 立石 貴久



祝駐屯地成人行事

駐屯地・特科隊安全祈願行事

一月九日(金)湯布院駐屯地は、湯布院町内の宇奈岐日女神社より宮司を招き、安全祈願行事が賑やかに執り行われた。当日は、天候にも恵まれ駐屯地敷地内にある「由布安全の礎り」の碑の前に、各部隊長及び部隊代表者が参列し駐屯地及び各部隊の一年の安全を祈願した。



由布安全の礎り



春風コンサート

～祝10回 地域とともに～



春風コンサート

三月十四日(土) 由布市「はさま未来館」において、西部方面特科隊音楽部は節目となる十回目の「春風コンサート」を開催した。

「春風に乗って」をメインテーマとして、三部構成で行われた。一部では「雄大」をテーマに西部方面特科隊音楽部と別府駐屯地第四十一普通科連隊音楽部及び日蓮原駐屯地音楽部の協力で自衛隊らしい力強さを披露し、二部では「はつらつさ」をテーマに由布高校、扶間中学校吹奏部の皆さんの若さ溢れる演奏で会場を盛り上げた。また三部では「親しみ」をテーマに大人から子供まで楽しめる演奏をし、由布川幼稚園、石城幼稚園の皆さんが歌やダンスで聴衆から大きな歓声と拍手が上がった。

最後は、「花は咲く」で出演者全員と会場が一体となり演奏を締めくくりに、近藤和義 大分県議会議長をはじめ加藤淳一 由布市教育長等多くの来賓と観客約五〇名から盛大な拍手を受けた。

未来へ



繋がる力



平成二十七年年度モニター紹介

四月四日(土) 湯布院駐屯地において、平成二十七年年度防衛・駐屯地モニター委嘱式を実施した。式では、各モニターに対して、駐屯地司令から委嘱状を手渡した。

また、三月三十日(月)には、平成二十五年度から防衛モニターとして、また二十六年度駐屯地モニターとしてご協力頂いた方々に、それぞれ委嘱終了証が手渡された。モニター期間中、貴重なご意見等頂き、誠にありがとうございました。それぞれの期間大変お疲れ様でした。



- 〔防衛モニター〕
- 麻生 宗俊様 (庄内町)
 - 〔駐屯地モニター〕
 - 二宮 孝則様 (扶間町)
 - 生野 友子様 (扶間町)
 - 小平 善久様 (湯布院町)
 - 佛川 直美様 (湯布院町)
 - 森山 美樹様 (庄内町)
 - 板井 沙織様 (庄内町)
- よろしくお願いたします。

我が家の宝

第三〇二観測中隊

三曹 村瀬 健



村瀬家の長男 遥紀くんです

二五九七号で誕生した第一子 長男の遥紀は、現在五ヶ月目に入りました。産まれて間もない頃は、小さな声で泣いたり少し目を開くくらいしか出来ませんでしたが、今では喃語をしゃべるようになり、手で物を掴んだり足をバタバタしてみたりと元気がいい姿が見られます。そして、なによりも喜ばしいのが私をみて微笑むようになりました。

初めて赤ちゃんとお風呂に入った時には、何をすることも泣いて困りました。それでも、可愛いと思う気持ちが勝るので本当に好きなのだ実感しました。この五ヶ月間はとても早く、多くのことを赤ちゃんと学びました。また、赤ちゃんと接すれば接するほど、自分を産んでくれて、ここまで育ててくれた両親に感謝の気持ちでいっぱいです。父親になり夫婦で協力して赤ちゃんと生活をしていることがとても幸せです。

「我が家の宝」は、私を大きく成長させてくれて、元気の源をくれる小さな赤ちゃんです。産まれてきてくれて本当にありがとうございます。

各種大会等成果

銃剣道

二月八日(日)福岡県久留米市体育館において、第五十三回九州銃剣道・短剣道大会が開催された。この大会に西部方面特科隊から二個チーム(湯布院・健軍)が防衛省二部に参加した。大会では、湯布院チームが並び居る強豪チームを押さえ、三位入賞の成果を残した。

剣道

二月十四日(土)から十五日(日)の間、自衛隊体育学校体育館において、第四十回全国自衛隊剣道大会が開催された。湯布院駐屯地(A・B・C)の三個チームが参加し、A・Bチームがベスト8の成績で取組賞の成果を残した。

県内一周大分合同駅伝大会

参加選手の紹介

二月二十三日(月)から二十七日(金)の間、春季分団第五十七回県内一周大分合同駅伝大会が開催された。今大会には、湯布院駐屯地から各都市代表選手として三十二名の隊員が参加し、郷土と個人の名誉に掛ける思いを込めたタスキを繋ぎ、不屈の精神で走り抜いた。



退官者紹介

第三〇二観測中隊 (退官日) 十月十日 陸曹長 吉良 正己

本部中隊 (退官日) 十一月十八日 准陸尉 安部 裕二

駐屯地業務隊 (退官日) 一月十四日 准陸尉 曾根崎友儀

第一二一大隊 (退官日) 一月二十八日 三等陸佐 戸高 京司

駐屯地業務隊 (退官日) 二月一日 陸曹長 久納 晃一

駐屯地業務隊 (退官日) 二月二十日 一等陸尉 佐保 光春

本部中隊 (退官日) 三月七日 准陸尉 横尾 英二



卓球

一月二十四日(土)二十五日(日)埼玉県朝霞市総合体育館において、全国自衛隊卓球選手権大会が開催された。湯布院駐屯地卓球部は団体戦ベスト8の成績を残した。

個人戦 壮年の部 第二戦 池田 曹長(湯布院)

定期昇任者

★准陸尉へ 第一二二特科大隊 那須本 潤

★陸曹長へ 本部中隊 八木 秀行

★本部中隊 第一三二特科大隊 赤木 徹彦

★本部中隊 第三〇二観測中隊 高森 浩

★本部中隊 第一二二特科大隊 内内 重行

長期の勤務 お疲れ様でした。

第三六八施設中隊 (退官日) 三月十九日 三等陸尉 武本 文彦

本部中隊 (退官日) 三月十五日 三等陸尉 木津 晋吾

第一二二特科大隊 (退官日) 三月十五日 内藤 悠一

第一三二特科大隊 (退官日) 三月二十九日 濱田 彰博

本部中隊 (退官日) 三月二十九日 山口 圭一

大津 貴俊(三二大隊) 二尉 三上 真一

山田 秀信(三〇二観中) 二尉 仁(二〇一直支) 首藤 仁(二〇一直支)

木村 孝広(二二大隊) 一曹 伊藤 弘高

植田 健太(三二大隊) 三曹 中野 謙二

熊田 源平(本部中隊) 一曹 友水 和彦

柏木 佑太(二二大隊) 三曹 安部 翔太

後藤 哲美(二二大隊) 三曹 成須 一貴

榎原 健市(本部中隊) 三曹 行政須 芳男

榎原 健市(本部中隊) 一曹 岩本 衛

榎原 健市(本部中隊) 一曹 岩本 衛

榎原 健市(本部中隊) 一曹 岩本 衛

榎原 健市(本部中隊) 一曹 岩本 衛

榎原 健市(本部中隊) 一曹 岩本 衛

榎原 健市(本部中隊) 一曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 二尉 三上 真一

第一三二特科大隊 一曹 伊藤 弘高

第一三二特科大隊 三曹 中野 謙二

第一三二特科大隊 一曹 友水 和彦

第一三二特科大隊 三曹 安部 翔太

第一三二特科大隊 三曹 成須 一貴

第一三二特科大隊 三曹 行政須 芳男

第一三二特科大隊 一曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 一曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 一曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 一曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 一曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 一曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 一曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 二曹 後藤 章仁

第一三二特科大隊 二曹 江口 祐司

第一三二特科大隊 二曹 白木健志郎

第一三二特科大隊 三曹 河野 圭寿

第一三二特科大隊 三曹 川原 純之

第一三二特科大隊 三曹 原口 一星

第一三二特科大隊 二曹 福島 秀和

第一三二特科大隊 三曹 弓削 剛

第一三二特科大隊 三曹 安部 翔太

第一三二特科大隊 三曹 白川 哲郎

第一三二特科大隊 三曹 成須 一貴

第一三二特科大隊 三曹 行政須 芳男

第一三二特科大隊 一曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 一曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

受賞 おめでとう

第一三二特科大隊 三曹 岩本 衛

慶弔

お悔やみ申し上げます

勝利への執念を燃やせ 特科隊銃剣道競技会

十二月十六日(火)西部方面特科隊は湯布院駐屯地体育館において、平成二十六年年度銃剣道競技会を実施した。統裁官(三宅優二等陸佐)は競技開始にあたり、「選手は礼に始まり礼に終わる武道の精神を認識せよ」「中隊全員が一丸となって応援せよ」、「陸士隊員は初一本を重視せよ」の三点を要請した。競技会には、来賓として西部方面特科隊・三群OB会長(渡邊輝政)氏をはじめ、大分県銃剣道連盟会長(亀井義氏)、同副会長(栗沢明氏)、山吹会会長(第一三二特科大隊OB会山田正年氏)等に試合を観戦していただいた。



- 試合結果
- ◎団体部
 - ◎優勝 第五地对艦ミサイル連隊
 - ◎準優勝 第一射撃中隊
 - ◎準優勝 第五地对艦ミサイル連隊
 - ◎準優勝 第三射撃中隊
 - ◎準優勝 第二二観測中隊
 - ◎個人部
 - ◎幹事 加祥二尉 (第五地对艦ミサイル連隊 本部管理中隊)
 - ◎陸曹 今村二曹 (第二二特科大隊)
 - ◎陸士(任期中) 山形士長 (第五地对艦ミサイル連隊 第二射撃中隊)
 - ◎陸士(任期未滿) 井岸一士 (第五地对艦ミサイル連隊 第四射撃中隊)
 - ◎女性自衛官 田妻三曹 (第五地对艦ミサイル連隊 本部管理中隊)

連隊創隊十七周年を 盛大に祝う

三月十五日(日)第五地对艦ミサイル連隊(徳橋浩志(等陸佐)は、陸軍駐屯地において、連隊創隊十七周年記念行事を実施した。式典においては、協力会及びOB会の皆様のご臨席を賜り厳粛に行われた。また、午後には場所を移して、協力会総会、連隊長の防衛講話に引き続き、夜には祝賀会を協力会OB会、隊員の多数の参加のもと盛大に催し、十七周年を祝った。



呼吸を合わせ(ら)ば

西部方面特科隊は二月五日(木)駐屯地体育館において、平成二十六年年度銃剣道競技会を実施し、らっぱ特技者の吹奏練度の確認評価及び練度の向上を図った。競技開始にあたり統裁官(三宅優二等陸佐)は訓示のなかで、「我々自衛官は、朝から夜までいるまでしっかりと吹奏とともに生活している。吹奏を目標として訓練成果を遺憾なく発揮した。」



- 結果は次のとおり
- ◎中隊対抗の部
 - ◎第一位 本部中隊
 - ◎第二位 第五地对艦ミサイル連隊 第三射撃中隊
 - ◎第三位 第二二観測中隊
 - ◎個人対抗の部
 - ◎陸曹の部 藤原三曹 (本部中隊)
 - ◎陸士の部 加藤士長 (本部中隊)

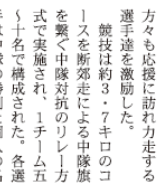
貴重な体験!!

二月四日(木)西部方面特科隊長以下五十名は、西部方面普通科連隊の支援を受け、着装(軽装(戦闘服・戦闘靴)・武装(ラバール)・防弾チョッキ・鉄帽)と段階的に体験し、海上において生存または救助するために必要な技術であることを認識した。今後は、水陸両用作戦に必要な知識、技能の修得及び資質の養成を目的とし、まずは氷力向上として、洋上生存術と継続的かつ段階的に訓練を実施してゆく。訓練の必要性を実感するとともに、大変貴重な機会を得られたと感想を述べている。



限界に挑戦! 特科隊武装走競技会

西部方面特科隊は、二月十二日(木)十文字原演習場において平成二十六年度特科隊武装走競技会を実施し、戦闘員として保持すべき体力及び気力を向上させることにも部隊の団結強化を図った。競技開始にあたり統裁官(三宅優二等陸佐)は「体力、精神力、団結力を最大限に発揮して中隊の名譽をかけた頭張ってもらいたい」と激励した。競技会場には、西方特科隊・三群OB会の方々も応援に駆けつけた。競技は約3、7キロのコースをスタートし、中隊旗を繋ぐ中隊対抗のりレー方式で実施され、1チーム五十名で構成された。各選手は中隊の勝利と個人の名譽を懸けてチーム一丸となって熱い戦いを繰り広げ、練成果を遺憾なく発揮し、一人の脱落者もなく無事競技が終了した。



- 結果は次の通り
- ◎射撃中隊の部
 - ◎優勝 第一二特科大隊 第二中隊
 - ◎優勝 第二二観測中隊
 - ◎優勝 第五地对艦ミサイル連隊本部管理中隊



激走!!

米国における 米海兵隊との実動訓練

一月十九日(月)から三月七日(土)までの間、西部方面特科隊の住野三佐以下十四名の隊員は、米国防力リオルニア州(キャンピング・センター)で実施された平成二十六年度米軍における米海兵隊との実動訓練(アイアン・フイスト15)に参加した。今年で十回となる本訓練では、島しよ部における作戦に必要な戦術・戦闘、実行動による米軍との相互連携要領を演練し、その能力の維持・向上を図った。



IF15に参加して

平成二十七年一月十九日(月)から三月九日(月)までの間、私はアメリカにてIF15に参加し、統合火力について学んできました。私は、IF15においてF15T長及びF5CCを統轄しました。F15TはFire Support Teamのことで、簡単に言えば、野戦砲、迫撃砲、艦砲、航空火力といった様々な火力を要求、誘導するチームです。また、F5CCとはFire Support Coordination Centerのことであり、こちらも簡単に言えば、F15Tの射撃要求の安全を確認し、要求に対して承認を下し、火力の調整をする機関です。当初、私はF15T長についてのみ訓練する予定でありましたが、思いがけずF5CCについても訓練することができました。この2つの役割を経験し統合火力全般を体験できたことはとても重要であると私自身考えます。この経験により私は統合火力には地形を認識する能力、知識や技術に基づく感知しました。これは射撃、誘導できる柔軟性が必要と感じました。これは射撃、誘導されたF15T、F5CC関係なく全ての者に対して言えることです。これらの事項は今までやってきたこと以上に厳しいものであると思います。しかし、これらの基礎となるものは既に特科職種に備わっているものであると思います。言わば、特科はこれから全体的に次の段階へ進むとしている、というところであり、その先駆けとなるのが西方特科隊である私たちであり、とても光栄なことです。統合火力へ進んでいきますよ。

第一二特科大隊第三中隊 三等陸尉 田久保 大樹

綿密な調整